



米子市長定例記者会見資料	
令和5年4月11日	
担当課 (担当者)	福祉政策課 松原
電話(0859) 21-8428	

報道機関 各位

開設一周年を迎えた総合相談支援センター「えしこに」について

当センターは、令和5年4月で開設から一周年を迎えることから、一年を振り返っての成果や効果、今後のあり方を表明するとともに、周年事業として総合相談支援センター「えしこに」一周年記念講演会を開催しますのでお知らせします。

記

【1年の振り返り】

1 具体的な成果や効果

(1) 相談支援

センター開設当初、新規相談件数は約300件と想定していたが、499件（うち108件が継続ケース）と想定を大きく上回る相談を受け止めた。

課題や困り事をどこで相談したらいいか分らなかった市民の皆様や支援機関等から、気軽に相談できる機関として認知され、多くのあらゆる福祉相談を受け止めることにつながった。

(2) 多機関との協働

複雑化・複合化した課題を抱えた方に対して、関係する庁内各課、関係機関や支援団体等と連携して、支援調整や制度の狭間の課題に関する検討を行う、重層的支援会議を27回開催（44件のケース対応）した。会議の性質上、毎月約4件ペースでのケース対応は想定以上であると思料される。

(3) 人材育成

重層的支援体制への意識啓発や人材養成を目的とした、「人と地域とつながる研修」を開催し、延べ95名が受講した。受講者アンケートで、約3割が支援を必要とする方の役に立ちたいと考えており、今後、地域活動実践者を着実に増やしていきたい。

2 今後の課題及びあり方

(1) 庁内の各窓口において、対応者が市民から受けた相談のつなぎ先がわからない場合や、複合的なケースだった際、詳しく話を聞かないまま「えしこに」を紹介することが多いことから、令和5年度から全庁職員を対象に「断らない相談研修」を行う予定としている。

(2) ご近所トラブルやゴミ屋敷問題等、福祉課題以外の相談も少なくないため、「えしこに」の設置目的や機能について、庁内外への周知啓発に工夫が必要。

(3) 包括的な相談支援体制の充実を図るために、様々な課題を抱える方に対する相談支援を行うため、地域住民、関係機関及び支援団体等との協働によるチーム支援の強化。

- (4) 想定以上寄せられる個別支援に時間を割くことになっており、地域支援が十分に行えていない。
- (5) 核家族化や独居世帯の増加等により他者との関わりが希薄化する中、行政の仕組みが増えることで、地域や親族間での助け合いの風土が後退しないよう、多面的な地域づくり支援を充実させる必要がある。
- (6) 市内7つ程度のエリアに分け、各エリアに高齢者分野の地域包括支援センターと障がい分野の一般相談支援事業所の機能を含めた地域支援と個別の相談支援の拠点となる「総合相談支援センター」の設置を行っていく。

【総合相談支援センター「えしこに」一周年記念講演会】

1 開催目的

当センターの一周年を記念して、有識者による講演及び支援者や地域活動者等によるパネルディスカッションを実施することにより、当センターへの協力に対する感謝の意を表明するとともに、地域共生社会の実現に向けて関係者や市民とその方向性を共有する機会とする。

2 開催日時

令和5年4月22日(土) 午後1時30分から午後4時30分まで

3 開催場所

米子コンベンションセンター 2階小ホール

4 内容

(1) 市長挨拶

(2) 記念講演

テーマ「市民の連帯で居心地よい地域社会をつくり出すチャレンジ」

講師 鳥取大学大学院教授 竹田 伸也

(3) 米子市ふれあいの里総合相談支援センター「えしこに」実践報告

報告者 総合相談支援センター長 松原 宏充

(4) パネルディスカッション

テーマ「制度の狭間の課題を抱える人への支援について」

パネリスト 学識経験者、民間事業所、地域関係者、米子市社会福祉協議会 等